

令和 6 年度

明るい家庭づくり

児童生徒作文集



倉敷市教育委員会

倉敷市長表彰作文

優秀作文

同意があつた作品を次のページから掲載しています

◆小学生の部◆

おそろからみていたかぞく
すきになつたてつぼう

第二福田小学校 一年 江本 莉子

お兄ちゃんの安心する手

船穂小学校 二年 小野 夏妃

まかせて、お母さん

老松小学校 三年 井田 有咲

この夏、お姉ちゃんがいらない！

老松小学校 五年 小野山 ゆり

妹とぼくのチャレンジ

長尾小学校 六年 福井 颯太

◆中学生の部◆

夏のばあちゃん家

玉島北中学校 一年 加集 滯

五人で家族

玉島北中学校 二年 三宅 知桜

家族との時間

庄中学校 三年 佐藤 碧海

優良作文

◆小学生の部◆

ぼくのいもつとはひかりちゃん
わたしのおとうさん

長尾小学校 一年 大賀 結生

力をあわせて

二万小学校 一年 長尾 咲南

家庭の中での話し合い

西阿知小学校 二年 永原 鈴夏

わたしの味方

第四福田小学校 二年 小橋 彩人

わたしの家ぞく

西阿知小学校 三年 安田 羽奏

ぼくの弟

第一福田小学校 三年 白神 実華

弟がいるから

味野小学校 四年 佐藤 海誠

おばあちゃんヒーロー

本荘小学校 四年 片山 華奈

お母さんと私

万寿小学校 五年 藤井 結衣

がんばる家族のすがたを見て

玉島小学校 五年 石井 仁菜

母さんとぼく

緑丘小学校 六年 前田 紗来

◆中学生の部◆

畑に行けば

味野中学校 一年 石村 あさひ

五人目

玉島北中学校 一年 濱田 珠吏

私はたからもの

南中学校 二年 奥田 椋乃環

「ありがとう」でつながる

真備東中学校 二年 清水 花菜

私にできること

東中学校 三年 平川 杷奈

協力体制バッチリ家族

南中学校 三年 三宅 穂

◆小学生の部◆

おそろからみていたかぞく

第二福田小学校 一年

えもと
江本 莉子

わたしには、うまれるまえのきおくがあります。おそろのうえで、どこのおうちにいこうかなあときがしていました。そのとき、パパとママをみつけました。ふたりはとってもわらっていて、なんだかたのしそうなおうちだなとおもい、ママのおなかにとんでいきました。

パパは、おもしろくてやさしいです。おしごとでつかれているのに、いつもだっこをして、あそんでくれます。

ママは、いつもはなしをたくさんきいてくれて、みかたでいてくれます。

「りこちゃんは、いちばんたいせつな、たからものなんだよ。」

といつてくれます。ママのつくる、ハンバーグとカレーはとてもおいしいです。

そして、四にんめのかぞくは、三つしたのおとうとです。かわいくて、あまえんぼうなおとうと。いっぱいけんかもしちゃうけど、だけどいいなときみしい、だいすきなおとうとです。

わたしには、いえのなかでしごとがあります。それは、おとうとにようちえんのふくをきせたり、ごはんをたべさせたり、いっしょにおふろにはいることです。ママから「りこちゃんは、ちいさいママだね。」といわれます。

おうちのとなりには、おじいちゃんとおばあちゃんもすんでいます。いつもいっしょにあそんでくれる、やさしいだいすきなふたりです。むしとりをさせてくれたり、はたけでおやさいをとったり、いろいろなことをさせてくれます。

わたしは、とてもやさしいかぞくにかこまれて、このおうちにおそろからとんできて、

ほんとうによかったなとおもいます。わたしもおおきくなったら、かぞくにやさしくして、みんながえがおいっぱいですぐす、そんなかぞくをつくりたいとおもいます。



すきになつたてつぼう

船穂小学校 二年

小野^{おの} 夏妃^{なつひ}

わたしは、ことしの六月までてつぼうが大
きらいでした。なぜかという、前まわりが
こわくてできなかったからです。おかあさん
と学校へ行つてれんしゅうをしても、こわい
から、

「やりたくない。」

「できない。」

と言つてにげていました。おまけにおとうと
にも、

「かんたんなのに、なんでできないの。」

と言われてはらがたつてけんかになったこと
もあります。そんなとき、おかあさんがてつ
ぼうをかつてくれました。その日のうちに、
おじいちゃんとおばあちゃんが、てつぼうを
くみ立ててくれて、夕方からつくんです。
ばんごはんも食べないで、前まわりのれんし
ゅうをしました。家ぞくから、

「手をはなさないかぎりおちないよ。」

「ゆつくりまわつて。」

いろいろなアドバイスをうけて、だんだん
できるになりました。さいしよは体をもつて
もらつてできました。その一かいでじしんが
ついて、

「じぶん一人でやる。」

と言つてやつたら、できたのです。うれしく
てなみだができました。みんなのおうえんもう
れしかったし、一人でできたこともすごくう
れしかったです。今では、ひまがあれば、

「てつぼうをしてくる。」

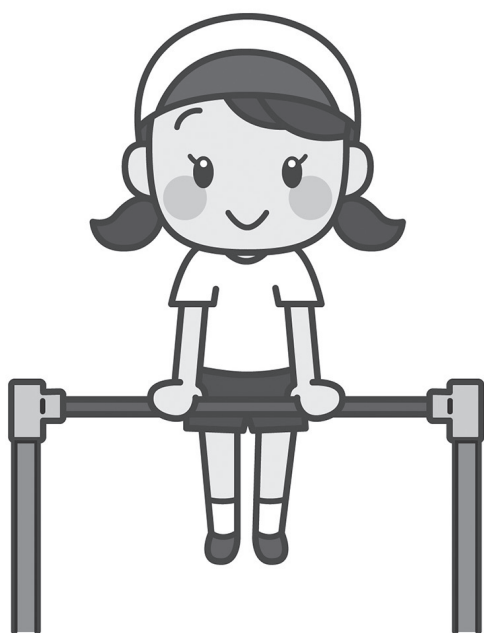
と言つて、てつぼうをしています。おかあさ
んには、

「てつぼうはもういいから、べんきようをし
たら。」

と言われるくらいです。

わたし一人ではむずかしいことも、家ぞく
のおうえんががんばることができました。わ
たしには、いつもわたしといっしょになつて
なやみを考えてくれるおかあさん、やさしく
みまもつてくれるおじいちゃん、おばあちゃ
ん、おうえんしてくれるおとうとがいます。
みんなのおかげで、わたしはいやなことも
りきました。家ぞくみんな、いつもあり

がとう。これからは、わたしもかぞくがこま
つてるときやなやんでいるときに、力にな
りたいと思います。



お兄ちゃんの安心する手

老松小学校 三年

井田 いだ 有咲 ありさ

「有咲、行こう。」

お兄ちゃんが、げんかんでわたしに向かつて手をのばして言った。その手をにぎって、はじめで二人だけでお買いものに行った。

夏休みがはじまってすぐ、お母さんがかぜをひいた。朝九時になってもお母さんがおきなくて、ゴボゴボせきをしてしんどそうだった。おなかがついてきたから、お兄ちゃんと二人でお買いものに行く作せん会ぎをした。二人だけでお買いものに行ったことがなかったの、どの道で行くか、何を買うかなどいろいろ決めた。それで、わたしがお母さんに「おなかがついたから、二人でお買いものに行つてきてもいい？」

と聞いた。そうしたら、お母さんはすぐに、「いいよ。二人で手をつないで行つてね。」と言ったので、うれしくて、お兄ちゃんとハイタッチした。お金をもらって、カバンの中にちゃんとしまった。それで、げんかんでお

母さんとバイバイして、お兄ちゃんと手をつないで出発した。

お兄ちゃんと手をつなぐのは、ひさしぶりだった。一年生と二年生の時、わたしはお母さんとはなれられなくて、学校になかなか行けなかった。お母さんにつれて行ってもらう日もあったけど、お兄ちゃんと歩いて行く日もあった。その時は、なっているわたしの手を、お兄ちゃんがぎゅつとにぎって、学校につれて行ってくれた。お兄ちゃんの手は、いつもあたたかくて、お母さんとはなれても安心できた。でも、三年生になってからは、お母さんがいなくても学校に行けるようになったから、二人で手をつないで学校に行くことがなくなった。ひさしぶりにつないだ、お兄ちゃんの手は、ちよつと大きくなった感じがした。でも、お兄ちゃんの手は、前といっしょであたたかくて、お店まで安心して行けた。

お店に着いてからは、二人で食べたいものと、のみのものをえらんだ。あとは作せん通り二人でお金の計算をして、あまったお金でお母さんの食べられそうなゼリーとジュースも買った。お金をはらう時は、ちよつときんち

ょうしたけど、お店の人がやさしく教えてくれた。帰りも、また二人で手をつないで帰った。早く家に帰れたかったから、走って帰ることにした。家に着いたら、つないでいた手が、あせでびちよびちよで二人でわらった。買ってきたゼリーとジュースをわたすと、お母さんはすぐよろこんでくれて、わたしもお兄ちゃんもとてもうれしかった。それから、買ってきたごはんを、お兄ちゃんといろんなお話をしながら食べて、いつもよりおいしく感じた。

二人だけでお買いものに行つて、少しお姉さんになった気がした。お兄ちゃん、またいっしょにお買いもの行こうね。その時も、いっしょに手をつないで、お話をいっぱいしながら歩いて行こうね。



まかせて、お母さん

庄小学校 四年

犬飼 いぬかい 航 わたる

ぼくはゲームが大好きだ。その次に好きなことは、人からありがとうと言われることだ。ゲームの時間は、一日三十分と決められている。ゲームをやれるのは、宿題が終わった後だ。でも、おふろの時間までに終わらないと、その日のゲームは、一秒もできない。特別ルールとして、三十分よりもつとゲームがやりたい時は、お手伝いをするプレイ時間をふやすことができる。ぼくは、このためなら、すすんでお手伝いをこなす。はりきって宿題もお手伝いもやった後は、心行くまでゲームを楽しむ。さらに、家族のみんなからは、ありがとうを言ってもらえて、とても満足した気持ちになれる。さい高に幸せだ。

しかし、時々ゲームの時間をうしなってしまうことがある。それは、学校から帰ってただらだとしてしまった時だ。もちろんお手伝いもやるが、その後つかれて、くつろぎすぎると、あつという間に夜が来る。泣いてもわめ

いても、時間はかえってこない。

「はあ。人生終わった。せつかくお手伝いをしたのに。こんなの水のあわじやん。」

そんな風におこっていると、

「航の人生始まったばかりでしょ。お母さんはいつも助かっているよ、本当にありがとう。」

と、え顔で言う。たしかにそうだとは思うけど、やつぱりくやしい。みんなから感しやはされるけど、何のためにがんばったのだろうあれ？でもお母さんは、毎日当たり前のようにやってくれている。その時、はつとした。僕は、お母さんのもとへ直行した。

「いつもみんなのこととしてくれてありがとう。ねえ、お母さんは仕事や家事をした後、ぼくみたいに何かごほうびはあるの？」

「こちらこそ、いつもありがとう。大好きな航が、元気でかわいいえ顔を見せてくれるだけでお母さんは幸せになれるよ。それだけで十分、ありがとね。」

そんなことを言われたぼくは、うれしいようなさけないような、おかしい気持ちになった。今までの「お手伝い」という考え方が、

そもそもちがうじゃないか。ぼくは、ゲーム

の時間がプラスされるためにがんばっていたけど、お母さんや家族のために、当たり前にな活やくしたい。家族というチームの一員としても、お役に立てるなら、それでうれしい。

そうだ。お手伝いは「お役立ち」だ。

ぼくは、ありがとうと言ってもえると、心に大きな花が開く。お母さんが同じような気持ちになってくれるなら、これからは、どんな小さな事にも感しやして、え顔いっぱいのがりがとうを伝えよう。そして、お母さんや家族みんなのハッピーな時間がふえるように、たくさんのお役立ちをひきうけよう。お母さんの心にもきれいな花をさかせたい。

「お母さん、お役立ちできることがあつたらなんでもまかせてね。あ、でもぼくが、つかれてる時以外でどうぞ。」



この夏、お姉ちゃんがいらない！

老松小学校 五年

おのやま
小野山 ゆり

今年の夏、お姉ちゃんがいらない！私は三姉妹の真ん中だ。生まれたときからとなりにはいつもお姉ちゃんがいた。いつの間にか妹もいた。お姉ちゃんはしつかり者だが、なぜか私には少しきびしい。いつも「早くしなさい」とか命令してくる。妹はもう小学二年生なのにいつまでも赤ちゃん気分だが、お姉ちゃんには妹には甘い。真ん中の私は時々、なんだかそんなをしている気分になる。私だつてえらそうにしたいし、甘えたい。

お姉ちゃんは今年の夏休み、ニュージーランドにホームステイに行っている。だから今、この家の「お姉ちゃん」は私だ！でも、お姉ちゃんがいないと大変だということに、私はすぐに気がついた。

まず、朝、だれも起こしてくれない！私は早起きが苦手だ。これまでいつもお姉ちゃんが「起きなさい！」と大声で起こしてくれていた。次に、勉強でわからないところがあ

つても、お姉ちゃんに教えてもらえない。だから宿題が全然進まない。そして、妹の遊び相手をしてあげないといけない。妹は家ではかいじゅうなので、私はよく泣かされる。このほかにもお母さんのお手伝いなども、色々なことをお姉ちゃんの分までしないとけない。まさかお姉ちゃんのいない夏休みがこんなに大変だなんて。

私はお姉ちゃんが家からいなくなつて初めて、自分がこんなにもお姉ちゃんに助けられていたことに気づいた。お姉ちゃんがいないと、私は早起きさえもできない。それに、お姉ちゃんが家にいるときにぎやかで、みんなよく笑う。ご飯を食べるときもねるときも、お姉ちゃんがいると毎日楽しかった。お姉ちゃん早く帰ってきて、と思うことがふえた。

でも、これから大きくなつて、本当にお姉ちゃんの家から出て暮らすようになることもあるかもしれない。だから、私はもつとしつかりしなきゃと思つた。まず、ちゃんと目覚まし時計で起きられるようになろう。家のことも、自分から進んでお手伝いをして、できることをふやしたい。勉強も、自分で何回も

復習して苦手をこくふくし、すぐに人に聞くのではなく、もつと自分で考えよう。妹とすぐにけんかしないで、仲良くしよう。

私はこの夏、これまでより少し「お姉ちゃん」になれた気がする。それは、お姉ちゃんがどれだけ大変なのかを知ったことで、お姉ちゃんをかつこいいと思えたからだ。お姉ちゃんはいつも、私や妹のためにがんばつてくれていた。少しめんどうくさく思うこともあったけれど、それも私のためを思つて言つてくれていたのだと気づいた。お姉ちゃん、ありがとう。お姉ちゃんが日本に帰つて来たら、私が成長したところを見せたい。そして、お姉ちゃんに「がんばつたね」とほめてもらいたい。お姉ちゃんにほめてもらうと、私はとてもうれしい。あこがれのお姉ちゃん、大好き！



妹とぼくのチャレンジ

長尾小学校 六年

ふく
福井 颯太

ぼくの家は、父・母・妹の四人家族だ。父は広島県の会社まで新幹線で通勤しているの
で朝早く家を出て、夜もぼくたちがねたあと
帰ってくるが多い。だから今までは、母
と妹とぼくの三人で力を合わせて生活するこ
とが多かった。だが、今年の四月からぼくた
ちの家族の形が少し変わってきた。三月の終
わり、母が真けんな表情で、

「お母さん、仕事が少ないそがしくなりそう。
朝も早く行かなくちゃいけなくなったの。」

そうたとりこより先に家を出るから、二人
の登校を見送ることができなくなりそう。」
と。六年生になった四月からやはり母が言っ
ていた通り、朝は妹と二人で家を出発するこ
とになった。最初は「そんなの簡単簡単。よ
ゆうさ。」と思っていた。兄としてがんばろう
と意気込んでいた。だが、思った以上にた
くさんの事件が待ち受けていた。

事件一、家のドア全開事件だ。あれだけカ

ギだけは必ずかけるように言われていたのに、
カギどころか玄関のドアを全開にしたまま家
を出ていたのだ。帰ってきてそのドアを見た
母は絶句したようだ。その後のいかりの長い
長い説教は、思い出したくもない事件だった。
事件二、妹とケンカ事件だ。仲良く協力し
て行く日ももちろんあるのだが、なんかやつ
ぱり朝はイライラしておたがいぶつかってし
まう。もちろん時間はギリギリ。目の前に通
学班のみんなが来ているのにまだ準備ができ
ていない。そんな日は心がモヤモヤして母の
顔を見たくなる。三月まではいつも家の前で
「そうた、りこ行つてらっしゃい。学校楽し
んできてね。」

と、笑顔で見えなくなるまで手をふってくれ
る母がいらないのは無性にさみしかった。でも
母は忙しい朝の時間の中、手紙を書いてテー
ブルに置いてくれたり、家を出た後、毎日家
に電話をしてくれたりした。母の声を聞くと
「ぼくががんばらなきゃ。妹と協力しなきゃ。」
と思い直しなえていた心が元気になった。

そんな失敗をしながらもだんだんと朝の動
きがスムーズになつてきた。

「ぼくが水やりするから、りこはカギお願い。」
ぼくたちは、やることを分担したり、声をか
けあったりして時間にゆとりを持つて家を出
ることが多くなった。さらに時間があるとき
は、掃除機かけ、洗濯たたみ、玄関そうじな
ど自分たちができることをした。

「お母さんを喜ばせよ。帰ったらお母さんび
つくりするかなあ。」

と、妹と相談しながら動けるようになった。
「うわあ。いつの間にしてくれたの？うれし
い。ありがとう。」

と母に言われ、妹と笑顔で顔を見合わせる。
そんなとき心がポカポカする。

さびしい日だつてあるけど、これからも妹
と協力して、家族の一員としてを考えて自分
ができることを行動していきたい。



◆中学生の部◆

夏のばあちゃん家

玉島北中学校 一年

加集 かしゅう みお
滯

私は今年の夏、二年ぶりにばあちゃん家へ泊まりに行った。小さいころは、毎年夏になると、ばあちゃん家へ泊まりに行っていた。けれど、この二年間は、行きたくても行けない理由があった……。

三年前の秋、じいちゃんが救急車で運ばれた。そこからじいちゃんは、入院と退院をくり返した。私が五年生の夏、ばあちゃんに「今年の夏は、じいちゃんの介護で忙しいから泊まりはなしね。」

と言われた。少し残念だったけれど、まあしやうがないかと思えた。六年生の夏、じいちゃんが亡くなった。葬式や法事で忙しかったため、夏のお泊まりなんか話にすら出てこなかった。

そして、今年の夏がやってきた。二年ぶりに、夏のお泊まりが再開されることになった。

私は嬉しくてたまらなかった。この日を待っていたのだから。久しぶりに泊まるばあちゃん家は、なんだか新鮮で、けれど、どこか安心感があつた。

昔のことを思い出しながら過ごしていると、ばあちゃんの変化に気付いた。この二年間で色々あつてなのか、歳をとつてなのかかわらないけれど、少し疲れているばあちゃんがいる。いつも見ていたばあちゃんのラジオ体操が、六時半ではなく八時半になっていた。ばあちゃんと話す時に、話の内容を二度言わないといけないことが多くなっていた。たったの二年間なのに、こんなに変わってしまうんだと少し驚いた。それと同時に、少し怖くなった。『ばあちゃん、いなくならないよね?』

そう思うと、今この時間を無駄にできないと思ひ、ばあちゃんと色んなことをした。

一緒に花火をした。暗い夜にぽつんと光る線香花火は、少し儚く、美しかった。なか命みたいだと思つた。ばあちゃんと一緒に買い物に行つた。いつものように

「ばあちゃん、お菓子買っていい?」
と聞いた。ばあちゃんは、しわいっぱいの笑

顔で

「もちろんいいよ。」

と言つた。私はすぐくなつかしい気持ちになつた。かわりない、ばあちゃん的笑顔や私たちを甘やかしてくれるところ。最初は変化ばかりで驚いていたけれど、やっぱり変わらなところもあるんだと、少し安心した。

夜ご飯は、みんなで一緒にハンバーグを作つた。私が肉だねを作り、お兄ちゃんがにぎり、おばあちゃんが焼いてくれた。味はもちろん百点満点。作る時も食べる時もみんなであつたので、おいしさも楽しさもどんどん増えていつて、忘れられない味になつた。おふろに入つた後は、みんなでふとんをしいて一緒に寝た。

次の日の朝起きると、ばあちゃんはもうふとんにいなかった。私がねぼけながら、リビングに向かうと、そこには元氣にラジオ体操をしているばあちゃん。私の心がどんどんほぐれていく。ばあちゃん家に来たばかりのときは、ばあちゃんのおとろえている姿に驚いていたが、ばあちゃんは、とても元氣だつた。今をしつかり生きていた。

その日は、昼近くからみんなで甲子園を見た。私は、いつも甲子園を見ているわけではない。けれど今は、ばあちゃんと一緒に何かを楽しみたいので、甲子園を見えることにした。夕方になった辺りで、ばあちゃん家にいとこ達が来た。みんなでスイカを食べたり、テレビゲームをしたりした。お話もたくさんして、あつという間に時間が過ぎていった。

もう帰る時間になった時、私は、ばあちゃんと別れるのがさみしかった。そして、ばあちゃんを一人にするのが心配だった。夏のお泊まりの時には、私達やいとこ達も来てにぎやかになるけれど、ここで別れたら、ばあちゃんはまた一人になる。

「大丈夫かな。さみしくないかな。」
その時ばあちゃんが、

「みんな、じいちゃんにもさよならしてね。」
と言った。その時私は、はっとした。『じいちゃん、去年亡くなつてしまつたけれど、完全になくなつたわけじゃない。ばあちゃんや私たちの心の中に、ずっと続けている。だから、ばあちゃんは、決して一人なんかじゃないんだ。』そう思うと私は、じいちゃんと

ばあちゃんに

「バイバイ、またね。」

と言ひ、家を出た。

夏の夜風にあたりながら車は進みます。げんかん前から手をふってくれるばあちゃんに、負けじと私も全力で手をふり返した。



家族との時間

庄中学校 三年

佐藤 碧海
さとう たみみ

私の家族は毎年、家族で父方の祖母のいる大分へ行きます。五、六年前までは大分へ行ってゲームセンターや温泉など、色々な所へ行っていると思います。その時、祖母が小さく、

「あと何十回会えるんだろうね。」

とつぶやいたので、私は「めっちゃ会う気だ……」と思いつつ、「まだ何回でも会えるでしょ」と思っていました。

私の家族は五人で、両親と三人兄弟です。

父は会社員で母はパートで勤めています。長兄は大学四年生で北海道に居ます。次兄は高校三年生でサッカーをしています。そして末っ子の私は家で絵を描いています。私はこの家族の一員になれてとても嬉しいです。なぜなら、母と父はいつも私の話を聞いてくれたり、長兄は家に居るとどこか連れて行ってくれたり、次兄と一緒に遊んでくれます。両親も兄もすごく優しく、四人との時間はとても

楽しいです。

そんな私の家族は毎年、正月になると大分へそしてその帰りには岡山に住んでいる母方の祖父母の元へ行きます。しかし、私は大分に行つてあることに気づきました。昔はいつも色々な所へ行っていたはずなのに、最近は祖母の家で動画を見たり、ゲームをしているだけということでした。しかし、私が中学生になつてから兄は大学二年、高校一年と少しずつ小学生と違い、「めんどくさい」と思うことがとても増えてきました。父に「どっか行く？」と聞かれても兄と私は「めんどくさい」「テレビ見たい」と断っていました。中学生になつてから平日は部活動や勉強、テストの頻度も増え、「休める日は休みたい」と思うようになりしました。

私は中学に入つてから家族と何かをするのについて「恥ずかしい」と思うようになりました。それまで家族でやっていた買い物なども友達に見られたくないし、友達と一緒に居る方が楽しいからです。たまに行く買い物も、せっかく来たのに「友達に見られたら」などと考え、「楽しい」よりも「恥ずかしい」

の方が先に来ってしまうことで家族と一緒に居ることが楽しめていない自分が居ました。そんな時、母が私に

「買い物とか、家族で出かけるのは嫌？」

と聞いてきました。私は正直嫌いじゃないし、かと言ってみんなで出かけたいたいと思わず、返答に困っていると、

「周りの目なんて気にしても何も残らないよ。」

と母が言いました。私は心底驚きました。なぜなら、ずっと母は何も知らないと思つていたので。そして私は

「買い物も遊びも友達の方が楽しい。」

と言うと、

「そういう考えもあるもんよ。」

と否定せず、肯定してくれました。母はずつと思ひ出の数ではなく、その時その時の思い出を残しておきたいという母の想いを知ることができました。

今回、母が私に質問してくれたことで、母の想い、家族と一緒に居ることの楽しさを知り、自分の考えを改めることができました。長兄は大学院生、次兄は大学生、そして私は高校生と家族全員の時間はどんどん減つてい

っているのかもしれませんが。だからこそ私は
友達との時間を大切にすると共に、家族との
時間も大切にしていけます。最初に話した祖
母の「あと何十回会えるんだらうね。」には「ず
っと一緒に居られるよ。」と、昔とは違う返答
ができそうです。



優良作文

◆小学生の部◆

ぼくのいもうとはひかりちゃん

長尾小学校 一年

大賀^{おおが}結生^{ゆうせい}

ぼくには、かわいいいもうとがいます。もうすぐ四さいになります。ちいさいときは、しゃべることができなかったけど、さいきは、よくしゃべるようになりました。いっしょにおはなしができるようになってうれしいです。

いもうとはえるさがすきなのでぼくもいっしょにおらふになってあげると

「やったあ。」

とよろこびます。よろこんでいるいもうとをみると、もつとあそんであげたくなります。

でもけんかをするときもあります。おもちゃのとりあいでけんかになって、いやなきもちになります。ないたりおこったりしている

いもうとをみると、やさしくしてあげたいなとおもいます。

いもうとがうまれた二〇二〇ねんは、ぼくがにゆういんしたり、ころながはやつたりして、たいへんでした。でもいもうとがうまれとって、みんなでがんばることが、できました。みんなをあかるくてらすきぼうのひかりになりますようにとねがいをこめて「ひかり」というなまえになりました。

かわいいかわいひかりちゃんへ

ぼくは、ひかりちゃんのことですきだよ。

ひかりちゃんがいるとあんしんするよ。

ひかりちゃんと、もつともつとおおきくなりたいよ。ひかりちゃんがこまっていたらたすけてあげるよ。ぼくは、ひかりちゃんのおにいちゃんだからね。ゆうせいより。



わたしのおとうさん

二万小学校 一年

ながお
長尾 咲南

わたしのおとうさんは、みえけんすずかしに
くらしています。わたしが二さいになつて
たんしんふにんをしました。だから、おとう
さんは、かぞくとはなれておしごとをしてい
ます。おとうさんは、くるまにつかうあぶら
をつくるおしごとをしています。おとうさん
は、月に二かい、かぞくにあいにかえつてき
てくれます。あえる日は、とてもわくわくし
てうれしいです。おとうさんも、わたしとお
なじきもちだとおもいます。

わたしは、おとうさんが、かえつてきたら
たのしみに行っていることが二つあります。一
つめはかたぐるまをしてくれることです。二
つめは、じてんしゃにのって、とおいところ
までいきます。いおんへいたり、おかしを
かいにいたり、あいすくりーむをたべにい
ったりしました。きゆうな、さかみちをのぼ
ったり、大あめがふつてきたりするときもあ
りました。でも、おとうさんといっしょなら、

しんどいこともとてもたのしいです。

わたしのおとうさんは、おもしろくてやさ
しいです。わたしは、ほいくえんのときから
たなばたのきせつになると、たんざくに

「おとうさんといっしょにくらせますように。」
とおねがいごとをしています。はやくいつし
よにくらせるひがきますように。



力をあわせて

西阿知小学校 二年

ながはら
永原 鈴夏

わたしのおかあさんは、びょういんでかんのしのごとをしています。おかあさんは、しごとがおわったらスーパーに買いものに行っておとうとたちをほいく園にむかえに行きます。そのあと、わたしを学どうほいくにむかえに来てくれます。家にかえると、おかあさんは、

「おなかへってるよね。」

と言つてすぐにばんごはんをつくってくれます。ごはんを食べておわると、あらいものをしたりおかたづけをします。わたしのおとうさんは、いつもしごとをおそくまでがんばってくれているので、お風呂もおかあさんがいれてくれます。そんなおかあさんを見て、すごいな、やさしいなと思います。でもおかあさんもおしごとで、かんじやさんがいっぱい来てすごくつかれているときもあります。だからみんなでおかあさんをたすけます。おとうとは、カーテンしめのお手つだいをします。

わたしは、ふとしきのお手つだいをします。おとうさんは、せんたくものをほすお手つだいをします。一ばん下のおとうとは、まだ二さいなのでおしごとはしていません。みんなで力をあわせてがんばるとおかあさんは、

「ありがとう。」

と言つてよろこんでくれます。おかあさんにありがとうと言われると、わたしはとてもうれしい気もちになります。やることが早くおわったら、家ぞくでボードゲームやカードゲームやおしゃべりをするじかんができてうれしいです。そのときは、みんなもたのしいかおをしています。だからわたしが思うあかい家ていは、家ぞくみんなで力をあわせる家ていだと思います。



家庭の中での話し合い

第四福田小学校 二年

こぼし
小橋 彩人
あやと

ぼくの家は、おとうさん、おかあさん、ぼくの三人家ぞくです。ぼくの家では、ふだんから家ぞくでよく話をしています。おとうさん、おかあさんと話しあってきめたぼくのルールに「大きなけがをしない」というものがあります。ぼくはこのルールを、小さいときから気をつけてまもるようにしてきました。

小学校のてい学年はけがをしたり、こう通じこにあたりすることも多いです。かなしいニュースもたくさんあるのでさい近ではとくにちゅういするようにしています。

ぐたいてきには、「とう下校のときに、こう通ルールをまもる」ことや、「なるべくじてん車にのらない」こと、「きけんなあそびをしない」ことなどです。あさ小学校に行くときは、車もたくさんはしっているので、きめられたみちを白線からはみ出さないようにあるくようにしています。六年かん、けがなく元気にとう校したいです。じてん車でころ

んだり、ぶつかったりしても大きなけがにながるので、ぼくはあまりじてん車にはのらないようにしています。のるときにはかならずヘルメットやひじあてをつけています。ゆうぐをつかったおにごっこや、すべりだいからのとびおりなどもぜつたいにしないようにしています。

ぼくがけがをすると、おとうさん、おかあさんはとてもかなしい気もちになると言っています。家ぞくをかなしい気もちにさせないように、ぼくはこれからもけがに気をつけてきめられたルールをまもりながら生かつていきたいと思います。そして、これからも家ぞくでたくさん話しあいをして、どんなことがあぶないかを考え、家ていでやくそくごとをきめていきます。ふだんからたくさん話をしていれば、あかるくてえがおが多い家ていになると思います。



わたしの味方

西阿知小学校 三年

安田 やすだ 羽奏 わかな

パパが仕事から帰って来た時、顔が黒くよ
ごれている時があります。

「おかえりー。」

とパパにだきつこうとすると

「今日はきたない水かぶったからダメ。お風
ろ入ってくる。」

と言う日もあります。グツタリした様子で帰
って来て、ごはんを食べた後すぐリビングで
ねてしまう日もあります。

わたしのパパは鉄を作っている会社で、き
かいのかんりをしています。この夏休み、パ
パの会社のファミリーデーがあり、ふだんど
んな所で、どんなふうに仕事をしているのか
見学したり、話を聞いたりできました。工場
の中には大きなきかいがたくさんあり、まっ
赤な鉄のかたまりがゴーツと音を立てながら
レールの上をながれていました。見学してい
た場所からはかなりはなれていたのに、もえ
そうになるくらいあつく、こんなにあつい所

で仕事をしているなんてはじめて知りました。

ねっ中しようでたおれてしまわないかとても
心配になりました。パパのしょく場の人に
話を聞くと、パパはとてもやさしくていい
いに教えてくれる、分からない時はお手本を
見せてくれると言っていました。家でもわた
しがべん強が分からないと、

「いつしよにやろう。」

と言って、わたしの横にすわってくれます。

わたしはべん強が分からないとイライラする
し、心がおれそうになるけど、きちんと分か
るようになるまでつき合ってくれます。問題
がとけるようになるとパパは、

「ほら、やればできるやん！」

と言ってギュッとだきしめてくれます。パパ
は仕事の時、

「やってみせ

言って聞かせて させてみせ

ほめてやらねば 人は動かじ。」

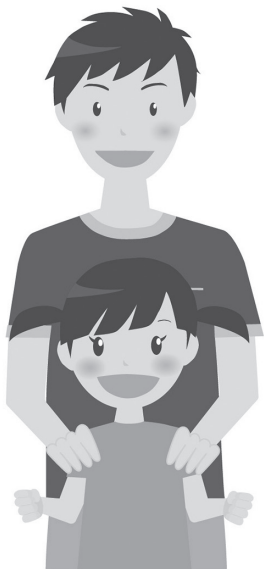
という言葉を大切に、リーダーとしてみ
んなを引っばつていけるようにがんばってい
るそうです。どんな時もわたしを助けてくれ
ておうえんしてくれるパパ。強い気持ちを持
って仕事をがんばっているパパをカッコいい

なと思いました。

いつもやさしいパパだけど、うそをついた
り人にめいわくをかけてしまった時は、
「こつち来てすわれ！」

とパパの目の前にすわられ、べつ人のよう
にわたしをします。ふだんやさしい分、
とつてもこわく感じます。

どんなに仕事でつかれていてもほめる時も、
しかる時もパパは全力でわたしと向き合っ
てくれます。いつもたくさんほめてくれてあり
がとう。いつも味方でいてくれてありがとう。
そして、あつい所でのお仕事、いつもがんば
ってくれてありがとう。



わたしの家ぞく

第一福田小学校 三年

白神 しらが
実華 みはな

「けんかをしたらりようせいばい!」

これは家ぞくの合言葉です。

わたしの家ぞくのしょうかいをします。わたしの家ぞくは、六人です。お父さん、お母さん、わたし、そして兄、双子の弟がいます。わたしたちは、いつもなかよくいっしょに楽しい時間をすごしています。

お父さんは、車の部品を作る会社ではたらくていて、毎日朝早く家を出ます。お父さんは、とてもやさしく、週末になるとわたしたちを遊びに連れて行ってくれます。

「今日は、どこに行こうか? 早くじゅんびするんよ。」

と、声がかかると、うれしくてみんないそいでじゅんびをします。みんな公園でおいごつこやかけつこをしてよく遊びます。

お母さんは、料理がとくいでいつもおいしいご飯を作ってくれます。

「今日のご飯はみんなの大すきなハンバーグ

だよ。」

と、声がかかると兄弟でハンバーグのとり合いになってしまうほど大人気です。お母さんは、わたしが落ち込んでいたらすぐに気づいてくれてよく相談にのってくれるやさしいお母さんです。

わたしは、まん中の子で上に兄がいます。兄は、サッカーをしていて、毎日練習をがんばっています。

「お兄ちゃん! がんばって! シュート!!」

とわたしがさけぶと少しはずかしそうにします。兄は、とてもめんどろみがよくて、たよりになるやさしいお兄ちゃんです。

そしてわたしには、双子の弟がいます。弟たちは、顔がそっくりですがそれぞれにこせいがあつておもしろいです。サッカーを二人ともがんばっていて、外に出るとずっと練習をしています。

「みいちゃんボールけて。」

「みいちゃん手つだつて。」

とよくわたしに甘えてきます。

いつも面白い事を言つてわらい合つていますが兄と弟たちとわたしでけんかをするこ

もありです。物のとり合いで言い合いになり

エスカレートしていき、ついに手が出てしまいます。すると弟たちが泣きながらやり返してきます。おわらないけんかをしているとお父さんとお母さんが声を合わせて、

「けんかをしたらりようせいばいだよ。」

と言われ、しぜんとみんなが笑顔にかわりけんかがおさまります。そしてなか直りすることが出来ます。

わたしは、家ぞくのことがとても大好きです。これからもずっとなかよく楽しくすごしていきたいと思っています。



ぼくの弟

味野小学校 四年

佐藤 海誠
さとう かいせい

ぼくのお母さんのおなかには、赤ちゃんがいます。ぼくは、ずっと「兄弟がほしいなあ。」と言っていたので、お母さんから赤ちゃんのことを教えてもらった時、「わあー！」とおどろき、とてもドキドキしました。そして、ものすごくうれしかったです。

赤ちゃんのことを教えてもらってすぐ、お母さんがなんだか元気がないことに気づきました。いつも家族三人で食べていた夕飯も、お母さんだけ食べられなくなりました。ゴールデンウィークに予定していた水族館やバーベキューもなくなってしまうました。ぼくは、すごく悲しかったけど、この時お母さんから「つわり」の話など、赤ちゃんがうまれてくるまでの大変さを教えてもらいました。赤ちゃんがうまれてくることは、ぼくが思っていたよりも大変で、ぼくが元気にうまれてこれたのもキセキなんだと思いました。

それからぼくは、毎日しんどそうなお母さ

んとおなかの赤ちゃんのために、お手伝いをしました。お風呂そうじやお皿あらいをしたり、お母さんといっしょに買い物へ行った時は、重い荷物を運んだりしました。学校がお休みの時は、お父さんからかんたんな料理を教えてもらいました。ウインナーやたまごを焼くことや、野さいいためはぼくのときい料理になりました。つわりであまり食べられないお母さんも、おいしいといってよろこんで食べてくれました。つわりのつらさはぼくにはよくわからないけど、お母さんが少しでも楽になってくれたらいいなあと思いました。

赤ちゃんがお母さんのおなかにきて五か月くらいたったところ、お母さんのつわりはおちつき、元気そうながたにぼくは安心しました。そしてある日の夜、お母さんから

「今日のけんしんでせい別がわかったから発表するね。」

と伝えられました。ぼくは、弟でも妹でもどちらでもよかったけど、予想は妹でした。お母さんからクラッカーをわたされ、カウンタダウンに合わせて、ドキドキしながらおもいつきりひもを引っぱりました。中からは青色

のテープが出てきたので、すぐにおなかの赤ちゃんは男の子だとわかりました。予想とはちがったけど、ぼくと同じ男の子だとわかって、うまれたらぼくの好きな車やゲーム遊びがいっしょにできると思うと、さらに楽しみでワクワクしました。

赤ちゃんがうまれてくるまであと一か月半になりました。お母さんのおなかもだいぶ大きくなり、何をするにも大変そうです。そして、赤ちゃんが動いているのがおなかの外から見てもわかるようになりました。もう赤ちゃんの耳は聞こえているらしいので、毎日「おーい！お兄ちゃんだぞ、元気かい？」

と話しかけています。ぼくもみんなも弟がうまれてくるのを楽しみにしているので、どうかぶじに元気にうまれてきてくれますように。



弟がいるから

本荘小学校 四年

片山^{かたやま} 華奈^{はな}

私には弟がいます。弟は今、小学二年生です。ふだんはかわいい弟だけど、時にはライバルで、時にはたよりになるお兄ちゃんのような、そんなじまんの弟です。

弟はとてもやさしいです。ほしい物が同じになった時は、かならず

「いいよ。」

と言ってゆずってくれます。私だけじゃなく、下の弟や友達たちにも同じようにできます。

私が落ちこんだ時には

「どうしたんだじょうぶ。」

と声をかけてくれるし、重たいものを持っていると、持ってくれたりします。

そんな弟にも、ぜったいにゆずれないものがあります。それは、ねる時のお父さんのとなりの位置です。兄弟三人でよく、ねる位置のじゅん番をじゃんけんできません。でも、自分がまけると、弟はかならず泣きます。お父さんのとなりがいいからです。そんなすが

たを見ると、かわいいなと思います。私も本当は、時どきお父さんのとなりがいい時もあるけど、そんな弟がかわいいので、

「いいよ。」

と言ってゆずってあげます。すると弟は、とつてもうれしそうに、

「ありがとう。」

と言ってくれるし、お父さんも

「やさしい。えらいね。」

とほめてくれるので、いいことができた気持ちでがしてうれしいです。

弟と私は、ライバルでもあります。勉強も水泳も、習字も、いつも弟ときよう争です。

でも今一番まけたくないのは野球です。弟は一生けん命練習するので、どんどん上手になっていきます。野球をしている時の弟は、しゅう中力もすごくて、夜ねる前まで練習することもあります。それにし合の時には大きな声を出して、どうどうとしているので、すごいな、かっこいいなと思います。

弟は、私には持つていないものを持つているし、私ができないこともできたりします。すぐくうらやましいし、かっこいいし、すご

いなと思います。それに、弟がいるから、まけたくないという気持ちもあるけど、弟がいると楽しいこともふえるし、安心するので、弟がいてくれてよかったなと思います。そんなじまんの弟を、これからも大切にしていきたいと思います。て、大きくなっても今と変わらず、仲よくしていききたいです。



おばあちゃんヒーロー

万寿小学校 五年

藤井 結衣

「えい、やー えい、やー。」

こうやって、いつもおばあちゃんが虫を退治する。私が虫を見つけて、

「虫がいるよ!」

と、言ったら、おばあちゃんは、すぐさまかけつけて来て、虫と戦う。私は、それを見て、いつも妄想してしまう。私が「人質」で、虫が「悪者」。そして、おばあちゃんが「ヒーロー」だ。それから、おばあちゃんヒーローと虫怪獣が戦う。毎回おばあちゃんヒーローが勝ってくれるけどね。しかも、虫怪獣が「はち」だとしても、おばあちゃんヒーローは、秘密兵器のスプレーで、へえーちゃら!

それはいいんだけど、おばあちゃんヒーローの大事な大事な畑に、あるものが来る。そのあるものっていうのは、おばあちゃんでも負けてしまう「カラス」だ!カラスは、見ていない間にさつとくる。そんなカラスにおばあちゃんは、はらをたてている。私の妄想で

いうには、「怪盗K」だ。怪盗Kは、知らない内に畑の野菜や果物を取っていく。挑戦状もないから、間に合わない。だから、おばあちゃんヒーローは、怪盗Kよりも先に野菜や果物を収穫しようとするけれど、やっぱり間に合わない。間に合わないことばかりだけど、おばあちゃんヒーローは、パトロールをしながら、戦いは、続いている。

他にも他にも、おばあちゃんヒーローは、雨が降ったり、お母さんが急な仕事で行けなくなったりした時は、すぐにかけて来てくれる。そのおかげで、習い事にも間に合う。またまた他にも、お米がなくなった時は、持つて来てくれるし、お菓子だってくれるし、笑わせてくれる天才でもある。なんととっても、笑顔がとってもいい。最高の宝物。

そんなおばあちゃんヒーローにも弱点が一つある。それは、近所のおばあちゃん友達と喋り始めたら、止まらなくなつて、覚えてたこともすぐ忘れてしまうという、弱点だ。

でもそんなおばあちゃんのが大好きだ。



お母さんと私

玉島小学校 五年

石井 仁菜
いしい にな

「二〇五〇年の自分の年れいを知りたいから、お父さんとお母さんが作ったライフプラン表を見せて。」

と私はお母さんに言った。

「なんで？何に使うの？」

とお母さんが言った。夏休みに入って数週間たったある月曜日、お母さんは仕事に行く前でいそがしそうだった。

「宿題で必要やけん。」

と私が答えたら、お母さんは

「それくらい自分で計算してみたら。」

と私に強く言った。それから私は何も言葉が出なかった。その後、妹がいるリビングから一人になれる階段に行った。少しクールダウンできて、お母さんの言う通り、自分で計算しようと思った。その時お母さんが私を見つけて、

「もう五年生だからその計算ができると思ったんよ。」

と言ってきた。でも、私は何も言えなかった。

お母さんは、仕事に行く前だったのであせつていて言い方がきつくなつたのかもしれない。でも、私はなんだかゆるせなかった。

お母さんが出発する時間になった。夏休みに入ってから、毎日欠かさず妹と二人で「行つてらっしゃい」と顔を見て声をかけていたがこの日は初めて顔を見て伝えることができなかった。

お母さんが家を出た後すぐに私は、お母さんごめんなさい、事故にあいせんようにと神様をお願いした。その時私はふと、さつきまでお母さんに対してイライラしていたのにどうしてこんな気持ちになるのだろう、と思った。

お昼になった。お母さんはお昼休みがあるので今なら話せると思つて私からお母さんに電話をした。すると、優しい声が聞こえた。

私は一番に、

「朝はごめんなさい。」

と言った。そしたらお母さんも、

「お母さんも朝はよゆうがなくてイライラしてごめんね。」

と言った。

お母さんが仕事から帰ってきて、私は玄関で一番にだきついた。すると私の体の中の何かがゆるんだ。ほっとしたのだろう。お母さんは私に言った。

「お母さんのお母さんはね、おこつたりイライラした後はその理由を教えてください、ごめんねってあまり言つてくれなかったんだ。だから、お母さんは自分が悪かった時はごめんねと子どもに伝えたいと思つたんだ。」

と教えてくれた。

よく考えてみると、今までお母さんに自分は悪くないのにおこられた時、

「さつきはイライラしてごめんね」

と伝えてくれていたなあと思つた。

大人でもイライラしたり、気持ちによゆうということもあるのだと思う。思春期に入り、これからお母さんとぶつかることも多くなると思うが、顔を見て話し合える関係を大切にしていきたいと思つた。

がんばる家族のすがたを見て

緑丘小学校 六年

前田 紗来^{まえだ さら}

私の家族は父、母、祖父、祖母、妹、そして私の六人家族です。父と母は同じ職場で働いています。祖父と祖母は家から車で三分の場所でお好み焼き屋を経営しています。私と妹は小学校に入学した時から、児童クラブに通っています。授業が終わって下校になっても、私は友達と一緒に歩いて帰れませんでした。友達はお母さんが迎えに来ていたり、友達と帰りながら遊ぶ約束をしたりしていて正直な気持ちを言うと、とても羨ましかったです。私も帰って友達と遊んだり、家に帰ったときに

「おかえり。」

と母に言っただけでした。母は私のその気持ちに気付いていたのか、

「お母さんが働いていて寂しい？」

と聞かれたことがあります。そのときの私は自分のことしか考えられていなかったもので、「寂しいし、家に帰って遊びたい。」

と言っていました。母は私に、

「ごめんね。」

と言いました。

土曜日は児童クラブが休みなので、いつもは祖父母が見てくれています。あるとき、仕事の中の母から忘れ物をしたので職場に届けてほしいと電話がありました。母の職場に行くのは初めてでした。母のいる事務所に案内され、母の仕事姿を見ることができました。普段家に居る母とはまた違った姿でした。今思えば、母は仕事から帰って家族のために休憩することもなく家事をしてくれています。児童クラブで終わらせた宿題もチェックしてくれたり一緒にお風呂に入って、一日の出来事をお互いに話したりします。働きながらも私と妹のことを気にかけてくれていたことに気が付きました。他の人が羨ましいと思うだけ、母に酷いことを言ってしまったことを反省しました。私は、家族のために働いてくれる父と母が今では大好きで、感謝の気持ちでいっぱいです。照れ臭くてなかなか言葉にできないけれど、今度こそ、

「いつもありがとう。」

と伝えます。私も母のようなお母さんになりたいです。



母さんとぼく

富田小学校 六年

袖岡 そでおか
直太朗 なおたろう

「またけんかしたんか。」

仕事から帰って、ぼくらに声をかける父さんの言葉に、母さんは

「ケンカじゃない。」

ぼくは

「ケンカなんかしてない。」

と返す。それを聞いて父さんは、

「仲がええなあ。」

と笑っている。

ぼくは母さんとよくケンカをする。「宿題

やったん?」「出すものはないん?」「明日

の準備は?」とご飯の準備をしながら、次か

ら次へと声をかけてくる母さんに、しょっち

ゅうイライラしてしまう。だから、「おん」

と言ったり聞こえないふりをしたりしている。

そしたら母さんの言葉が飛んでくるからどん

どん腹が立って、ぼくは何も言いたくなくな

ってくる。そのころには母さんもわかってい

るから、結局いやな空気だけが残ってしまう。

それを父さんは「ケンカ」と言って、母さん

はそう言われるのがすごくいやらしい。

「そんなつもりで言つとらん。」

と言うけれど、ぼくもそんなつもりはない。

でも、いつも次から次へと言ってくる母さん

に「うるさいな」と思っていた。

そんな母さんが入院した。とつぜんだった。

びつくりした。母さんはいつも元気だったか

ら、病気になるなんて思ってもいなかった。

いつも仕事でおそかった父さんが少し早く帰

ってくるようになって、ばあちゃんがうちに

きて、今まで以上にいろんなことを助けてく

れるようになった。

「すぐ治るよ。」

とばあちゃんもじいちゃんも言ってたけど、

そうはいかなかった。朝起こしてくれる人が

いなくなつて、宿題をやつてるときにちよつ

と教えて、と聞く人がいなくなつて、野球の

とき、大きな声で応援してくれる人がいなく

なつた。ばあちゃんがご飯を作ってくれて、

帰ったらだいたい家にいてくれるのはうれし

かったけど、夜になるとさびしくて不安にな

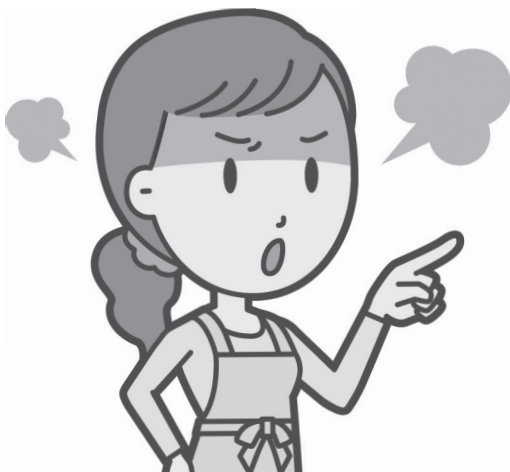
つた。でも、弟が「さびしい」って言つてた

から、ぼくは言わないようにした。

一か月ぐらい経つて、母さんが帰ってきた。

その日はふつうに学校だったから、帰ったら母さんがいた。母さんがだきついてきたからちよつとはずかしかったけど、ちよつと涙が出た。あんまり変わつてないように見えたから安心した。

母さんが家に帰ってきてから何か月かがすぎた。やっぱり母さんはうるさい。「宿題やった?」「明日は体育ある?」「すいとうだして。」何も言われない日はない。やろうと思つたときに先に言うばかりするから、はらがたつ。けど、いないよりはいい。いつか母さんとケンカをしないようにしたいと思つている。



◆中学生の部◆

畑に行けば

味野中学校 一年

石村^{いしむら} あさひ

七月のはじめ、ダンボール箱いっぱい野菜が届きました。中にはトマトにピーマン、じゃがいも、玉ねぎがぎゅうぎゅうにつまっていた。このたくさん野菜を送ってくれたのは、私のおじいちゃんです。

私のおじいちゃんは、岡山県の北部にある真庭市に住んでいます。町には大きな川があり、春にできる桜のトンネルが有名です。そんな町に住んでいる私のおじいちゃんは、いつもよく動いている元気な人です。ずいぶん前、たけのこを採りに山へ行ったことがあります。そのとき、おじいちゃんが急な斜面をどンドン登って、姿が見えなくなり心配していたら、手に大きなたけのこを持って現れました。そのとき、すごいなあと思ったことが忘れられません。そんな元気なおじいちゃんは、趣味で田んぼを借りて、稲の苗を植えて

お米を育てたり、畑でいろいろな野菜を育てたりしています。そして、収穫したお米や野菜をわが家につけてくれます。そのおかげでお米はほとんど買ったことがないみたいです。私は、おじいちゃんの育てた野菜の中で特にトマトが好きです。いつも真っ赤で味が濃くてとても美味しいからです。

今年も夏休みに入り、久しぶりにおじいちゃんの家に行きました。家に着くと窓から顔を出して、

「久しぶりじゃな。よく来たなあ。」

と笑顔で迎えられました。久しぶりに会い、少し照れくさくて、

「こんにちは。」

と小さな声で返事をして部屋に入りのんびり過ごしていました。その間、おじいちゃんが「スイカ好きかな。食べるかな。」

と聞いてくれました。

「あさひはスイカ大好きです。」

とお母さんが言うとき大きなスイカを上手に切つてだしてくれました。私たちが家に着く前に畑に行つて、スイカやナス、ピーマンにカボチャなどたくさん野菜を採ってきてくれ

ていました。私は小さいころ、おじいちゃんの家に行くとき家の中を走り回り、自分からおじいちゃんとおばあちゃんに話しかけることができていたのに、大きくなるにつれて久しぶりに会うと照れてしまつて、思うように話すことができずに時間が過ぎてしまうことが多くなりました。

「中学校は楽しいかな。部活はどんなことをするのかな。」

と聞いてくれると返事をする事ができるのに、なかなかその話をふくらませることができなくなっていました。自分のことをたくさん話して、知ってもらいたい気持ちはあるのに、なかなかそうできないことが悔しいといつも思っています。今回もそうして時間が過ぎてしまいました。帰る時間が近づいてくると、おじいちゃんがお父さんと呼んで、用意してくれていたお米やたくさん夏野菜を車に積みはじめました。そのとき、

「あさひちゃんは、スイカ好きかな。」

と大きな声が聞こえてきました。

「うん。スイカは好き。」

と答えると、今まで見たことがないくらい大

きなスイカを持ってきて、

「家でしっかり食べるんよ。」

と言って車に積んでくれました。とてもうれしかったのに

「うん。ありがとう。」

と小さな声で返事をしてしまいました。それでも、私たちが車に乗り込み出発するとき、

「また来てよ。気をつけて帰るんよ。」

と笑顔で送りだしてくれました。私は、帰りの車の中で

「また、自分から話せなかった。」

と言いました。お母さんが

「今度、おじいちゃんの畑と一緒に行ってみたいといいが。」

と言ってきました。確かにそれは良いかもなと思いましたが。畑に行けば、おじいちゃんの育てたトマトはどうしてこんなに濃い味になるのか、スイカはどうしてこんなに大きく育つのかたくさん質問できそうな気がします。

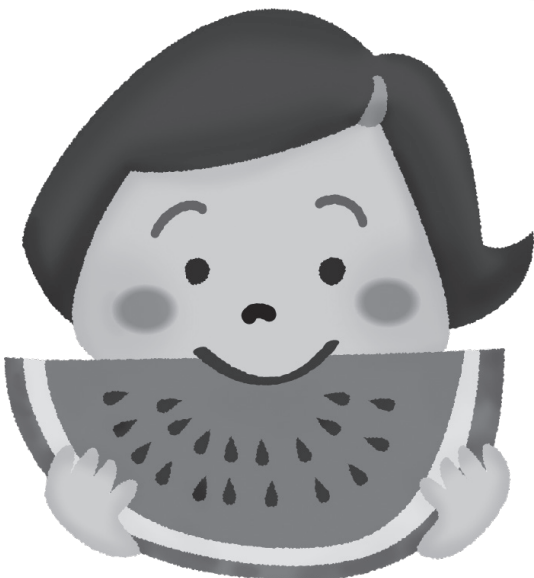
そして、私がトマトやスイカを楽しみにしていること、いつも美味しく食べていることを話して

「いつも美味しいお米や野菜を送ってくれて、

ありがとう。」

と大きい声で伝えたいと思いました。

この夏も、おじいちゃんの育てた真っ赤でシャリシャリの甘くておいしいスイカを食べられて幸せな夏になりました。



五人目

玉島北中学校 一年

濱田^{はまだ} 珠吏^{しゅり}

僕の家族は、僕を含めて四人だ。父さんは、介護士で食事やお風呂など、お年寄りの生活のお世話をしている。母さんは、家族が困らないように声をかけてくれたり、栄養のあるものを食べてもらおうと、美味しいご飯を作ったりしてくれる。兄は、中学三年生だが、「かまっちゃん」で僕の部屋に來たり、ちよつかいを出したりしてくる。でも、家族が困った時は、優しく助けてくれる。最後は、僕だ。そんな家族にこの夏、新しい仲間が加わった。

みなさんは、赤ちゃんといったら何を思い浮かべるだろうか。僕は、元気に泣く姿を思い浮かべる。これから書くのは、五人目の家族。元気に泣く赤ちゃんの話だ。

昨年十二月、父さんたちに呼ばれ、リビングに家族が集まった。何の話だろうとドキドキした。話を聞いて驚いた。なんと、新しい家族ができたのだ。赤ちゃんができたと聞

いて、嬉しくてワクワクした。

一月十日頃から、母さんの様子が変わった。「気持ち悪い。」と言ってトイレに行ったり、ご飯が食べられなくなったりした。悪阻（つわり）だ。悪阻とは、妊娠初期に多くの女性を感じる吐き気や嘔吐、食欲不振などの症状だ。母さんは、体調が悪化し、体重も十キロ減ってしまい、一週間入院することになった。父さんも仕事を休めないで、家事や自分のことなど男三人で協力してやった。母さんは、退院しても悪阻の症状は続き、とてもしんどいそうだった。

それから二か月たつと、悪阻も終わったが辛いことは、まだまだあった。

食べてはいけない物もあるそうだった。生もの、カフェインという成分が入っている物、例えば、コーヒーやチョコだ。母さんは、食べたくても飲みたくても口にできないので辛そうだった。体調がもどり、食べられるようになって、体重管理をしないといけない。体重の急な変化は、赤ちゃんに負担があるそうだった。母さんは、一か月に一キロ二キロまでの増加という目標を立て、食べる量も制限した。

赤ちゃんを産むために体力もいるので、母さんは、軽めの運動もしていた。走ったりとといった運動はできないので、歩数を増やして体力をつける。一日、少なくとも七千〜一万歩は歩いていた。お腹の中に赤ちゃんがいるので、歩くことも大切なのだそうです。

気持ちの変化もある。情緒不安定になって、イライラが多くなったり、悲しくて泣いたり、いつもの母さんじゃない。赤ちゃんを産むまでの母親は、こんなにもしんどい思いをして、努力をしなければならぬことを知った。自分や兄の時はどうだったのか、気になり母さんに聞くと、母さんは嬉しそうに話す。こんなに辛い思いをしているのに、しんどいことも嬉しいことも含めて思い出なのだそうだった。

五か月〜七か月にかけて、母さんのお腹は、少しずつ大きくなった。このころから赤ちゃんは、たくさん動きはじめた。動くときも痛むこともある。お腹が張る時もある。皮ふを両側から引っぱられるような痛みだそうだった。想像しただけで自分も痛くなる。

八か月をすぎると、体が重くなり、何もしなくても痛みがある。実際、母さんは毎日

辛そうだったし、歩くことも大変そうだった。お腹の痛みも日に日に増していく。そして、赤ちゃんが産まれる前には、陣痛というとてもない痛みが起こるというのだ。そこまでいくと想像もできない。少し怖かった。

そして、いよいよ出産の日。僕と兄は、祖母の家で母さんと赤ちゃんの無事を祈っていた。その時間は、とても長く感じた。待っていると、祖母のけい帯が鳴った。母さんが、元気な赤ちゃんを産んだという知らせだ。僕は、心の中でガッツポーズをした。うれしくて。

産まれた次の日には、初めて赤ちゃんをだっこした。頭は、こぶし一個分くらいの大きさで小さく、とても軽かった。よく泣いてイメージ通りの赤ちゃんだ。本当に可愛いらしい僕の弟だ。今日から家族の仲間入りだぞ。五人目の家族だ。と思いながら、一生懸命だっこした。兄となった僕は、弟のために世話をしたいと強く思うようになった。そのために赤ちゃんを観察して、実際にふれてみるこ

とが大切だと教えてもらった。

母さんと弟が退院して帰ってきた。これか

ら五人の生活が始まる。まずミルクをあげてみた。ミルクを飲んでる弟は、とても幸せそうな顔をしていた。それを見て自分も笑顔になった。次はオムツを替えてみた。どうやったら気持ちよくなれるか考えながらしてみた。オムツ替えは、意外にも難しくもつと練習が必要だと感じた。

僕は、今回出産までの様子を見てきて、出産は嬉しいことや辛いこと、ワクワクを感じられることや母の努力、命の大切さについてたくさん考えることができ、家族全員で出産に向けて協力し合えて本当によかったと思う。



私はたからもの

南中学校 二年

奥田 おくだ 権乃環 かのわ

「私のたからものちゃん、うまれてきてくれてありがとう。」

そう私のお母さんはよく私に伝えてくれます。お母さんは、妹にも、お父さんにも、私にも優しく、言わないといけないことを、自分の気持ちをはずきり伝えてくれて、私が悪いことをした時にはちゃんとしかってくれる、そんな人です。そんなお母さんの言葉を、私は特に気にとめていませんでした。でも、お母さんの、「私のたからものちゃん、うまれてきてくれてありがとう。」は、いつのまにか、私の心を深く、温かくしてくれるものとなりました。

いつもどおりの金よう日、私は学校から帰り、家のリビングでお母さんとくつろいでいると、友達からメールが来ました。その友達は小学校が同じですつといっしょにいたからというのもあり、何でも話し、本音で話し合えるような、そんな大親友でした。そんな友

達とのメールで、

「そつちの妹さん、言ったらだめかもしれないけどちょっとぶりっ子じゃない？かわいこぶってない？」

「そうなのかな、私はそう感じたこと無いけど。」

なんて話していると、つかつとなつてしまいました。友達も、私の返信にまた返信して、私もその返信の返信に返信して、言い合いになつてしまいました。家族をばかにされたような気がして、言葉が強くなっていくうちに、となりにいたお母さんが気づいて、

「どうしたの？何かあった？」

そう聞いてくれました。お母さんは優しいです。でも、イライラしていたのもあって、その優しさに

「うつとうしい、話しかけないで。」

と八つ当たりして自分の部屋へ、もどりました。もう何も考えられなくなり、その日一日中、おいしいごはん、あったかいお風呂、をあたりまえに出してくれているのに、お母さんの優しさにそつけなく、それよりもつと悪態をついてしまいました。まったく関係の無

いお母さんに八つ当たりをしてしまいました。

その夜は関係のないお母さんに八つ当たりをしてしまったことより、大好きだった親友とけんかをしてしまったことで、頭がいっぱいでした。次の日もそのまま八つ当たりをして、その次の朝、きまづいな、なんてかっさに思いながらもリビングへ行くと、私の好物のハンバーグと、お母さんがまっていました。朝からハンバーグはおもすぎるし、作るのがく大変なのを知っていたので、何だかうれしくなつて、席に着くと、お母さんは、

「何でも話してね、いつでもお母さんはみかだから。私のたからものちゃん。」

と言いました。頭がまっ白になり、悲しくないの、涙がじわつとできました。私は友達とけんかをした、ということだけいつもの会話のように、明るく話すと、

「そんなことか。」

と笑ってくれました。その日はお母さんはずつといっしょにいました。いつもの何倍も話して、すると、いつもの何倍も話しかけかえしてくれました。そんな優しいお母さんが、私のたからものです。

私のお母さんは、優しく、ずっと私のみ
かたでいてくれて、私をたからものだと思っ
てくれる人です。そんなお母さんが、私のた
からものです。



「ありがとう」でつながる

真備東中学校 二年

清水^{しみず} 花菜^{はな}

みなさんは、日常生活できちんと「ありがとう」を言えているだろうか。今まで、私は「ありがとう」を言うことがあまりなかった。けれど、これがきっかけで「ありがとう」の大切さを感じることができた。

今年の夏休み、私は家庭科の宿題で弁当作りをすることになっていた。その弁当に入れる材料を採りにおじいちゃんの家に行った。

おじいちゃんは趣味で野菜を作っている。

畑に行くと、たくさん種類の野菜がきらきらと太陽に当たって輝いていた。二人で汗をかきながら野菜を収穫していたときにおじいちゃんは野菜についていろいろ教えてくれた。

私が知らないことまでたくさん知っていて、野菜について説明しているおじいちゃんは、何だか楽しそうで、とてもかつこよかった。

野菜の収穫を終え、私は初めての経験をした。生の大きなトマトを丸かじりしたのだ。そのトマトは、とてもみずみずしく、丸かじ

りをしただけなのに、なぜかいつもよりおいしく感じた。やっぱり、料理してからとれたての状態では違うものがあると思う。

おじいちゃんが畑仕事を大変そうにしているのを見て、野菜を作るためには、多くの工程が必要でいつも私たちが食べている野菜は時間をかけ、私たちのために作ってくれているのだなと思った。これからは、私たちのために作ってくれる人がいることを忘れずに、味わって食べたい。

次の日、私はいつもより一時間早く起き、いつも仕事を頑張っている父のために弁当作りを始めた。私は料理があまり得意ではないのだが「おいしかったよ」の一言だけでもいいから言ってもらえるように工夫した。ごはんは鍋でたいた。炊飯器でたくよりもふんわり湯気が立っていてとてもおいしそうだ。炊飯器だと作りたい時間ぴったりに作れるけれど、鍋でたくと時間は炊飯器よりおそくなる分、お米のふくらとしたおいしさを感じた。今回、鍋でのお米のたき方や料理方法を母に教えてもらった。どれも初めてすることばかりだったのでよい経験になった。弁当作りはう

まくでき、そのことを後日、おじいちゃんに伝えた。次はおじいちゃんに弁当を作ろうと思う。料理をすることが楽しくなった。

弁当作りで学んだことは、弁当を作る人はいつもより早く起きて準備をし、限られた時間ですべて作り終えなければいけないことだ。私は初めて弁当を作ったので、かなり時間がかかってしまった。限られた時間の中ですべてを仕上げるのは大変だった。

私は吹奏楽部に入っていて、コンクールなどがある日は母に弁当を頼んでいる。いつも頼んでいて、気がつかなかったけれど、母は私が起きる何分も前から準備をしていた。弁当を作ってもらうことに「ありがとう」を言わず、あたりまえのように弁当を作ってもらっていて、母にとっても申し訳ない気持ちになった。

あたりまえだと思っていたけど、私の見ていないところで苦労している。ずっと言えなかった「ありがとう」をこれをきっかけに伝えようと思えた。

「いつもありがとう」その一言が言えたと、私は母への感謝の気持ちでいっぱいだった。

た。母は一瞬、驚いた顔をしたけれど、とてもうれしそうな顔をしてくれた。「ありがとう」と言った私も、こんなあたたかい気持ちになるとは思わなかった。

それから、私はどんなときでも「ありがとう」を言うことを大切に行っている。「ありがとう」の一言は相手はもちろん、言った自分もうれしくなる言葉だと思う。昔は「ありがとう」を家族に伝えることが減っていた。でも今は、一番に「ありがとう」を身近な人に伝えたい。今まで、私があたりまえだと思っていたことに對して、言えていなかった分の「ありがとう」をこれからたくさん言っていこうと思う。

また、この弁当作りで、身近な人たちとのつながりを大切に行っていたと思った。私をいつも支えてくれる家族やまわりの人たちは私が知らないところでも支えてくれている。それを「ありがとう」でつなげていこうと心に決めた。今はそんな「ありがとう」が大好きになった。

みなさんはどうだろうか。身近な人に日常生活のどんなに小さなことでも「ありがとう」

を伝えることができているだろうか。昔、恥ずかしくて言えなかったけれど、今「ありがとう」の大切さに改めて気付いた。この「ありがとう」という言葉はこの先ずっと大事にしていきたい。



ありがとう

私にできること

東中学校 三年

平川 ひらかわ 杷奈 はな

私の家庭は、最近増えている共働き家庭ではない。共働き家庭ではなくなったといった方がいかもしれない。今は、父が仕事に出て、母は家で家事をしている。このようになったのは、私が生まれて二年ほど経ってからであった。

まだ共働き家庭だった頃。私は二歳で、保育園に通っていた。送り迎えはいつも父だった。母が幼稚園の先生をしており、毎朝早く家を出なければならなかったため、保育園の登園時間まで家にいらなかったからだ。とはいっても、父も忙しくないわけではなかった。その頃の父は、仕事がうまくいかず、毎日苦勞していて、迎えにきたときには、いつも大変疲れていた。父は、私を迎えに行った後、私を祖父母の家に預け、すぐまた仕事に戻っていった。私はよく、祖父母の家の庭でお菓子を食べていた。その庭から見える家が、当時住んでいたアパートの外観によく似てい

たので、母の帰りを待ちながら眺めていたのを覚えている。

私には正直なところ、その時期の母との記憶がほとんどない。だからといって、今私は、その時のことが寂しくもなんともない。だがそれは、母が翌年先生を辞めたからだろう。その後、たくさんの母の愛情のもとで育ったから。だから今の私は、なんとも思わないのだと思う。

母が先生を辞めたのは、幼稚園の子供たちに「九時までには寝ようね。」と言うのに、その子たちより小さい当時の私が仕事の都合で十時を回ってから寝ていたので、「これでいいのだろうか。」という葛藤があったからだそう。また、父の仕事は融通がきかない仕事だったというのも理由の一つだった。

母は、そうして先生を辞めた。私も保育園ではなく、幼稚園に通い始めた。家に帰ってからずっと、母と一緒にだった。小学生の時も、中学生の今もそう。そんな中、決して母が仕事に戻りたいと言わなかったわけではない。私は、母がよく、仕事に戻りたいと言っているのを知っている。それと同時に、母

が仕事に戻りたくても戻れない理由も知っていた。理由は簡単だ。母が仕事に出てしまうと、家が回らないからである。母が仕事を辞めてからの我が家は、掃除・洗濯・炊事・買い出しなどの家事を、ほとんど全部、母がするようになった。そうして、私もいつの間にか、そんな環境に慣れてしまっていた。だから、それらのことを代わりにしようと思っても、やり方を知らないためにできないのだ。母がしてくれるから別にいいだろうと思つて、ずっと任せきりになっていたのだ。それを自覺して初めて、気が付いた。母が仕事に戻れない理由が、自分にあったということ。実際、私が生まれ、悩んだ末に、ずっとなりたかった先生を辞め、今も、私がこんな感じだから、戻りたくても戻れないのではない。私は、自分の無力さを痛感した。

「このままではいけない。」

そう思つて、私は家の手伝いを始めた。ごはんの盛り付けや配膳・洗濯物の取り込み・お風呂掃除など、徐々にやることを増やしていった。父も、仕事から帰ってきて皿洗いをしたり、休日には草抜きをしたりと、忙しい中

で協力してくれた。そうして、だんだんと手伝えることが増えてきた。

そして今、母は週一回のボランティアで、小さな子供たちと関わる仕事をしている。聞く限りでは、幼稚園の先生と同じような活動も多く、母はその仕事が楽しいと言っている。そのボランティアは、私が学校に行っている時間にあるため、夕方帰ってからすることが多い私の手伝いの効果を感じることはできない。だが、私は、たとえ効果が感じられなくても、手伝いを続けたいと思う。また、受験生だからと勉強ばかりしたり、だからだと空いた時間を過ごしたりせず、これからも、手伝えることをどんどん増やしたい。そうすること、徐々に手伝いではなく、自分でするのが当たり前なことも増えていくと思う。自分のことはもちろん、家のことも自分でできるようになっていると、母が仕事に戻りたくなったときに、家の心配をすることなく、安心して戻ったり、父が疲れて仕事から帰ってきたときに、家で休んだりできるような環境をつくることができると思うのだ。

家庭の形はそれぞれだ。しかしその中で、

家族みんなが、それぞれのやりたいことをできるように、家族みんなが支え合い、助け合いうことが大切だと思う。時には、自分のやりたいことを我慢して、家族のために時間を使うことも必要だろう。まず、我が家では、いつまでも母に任せきりにならず、家事はみんなのことだから、無理なく続けてできる範囲で家事を分担し、自分のことは自分でしたい。それが、我が家のみんなが笑顔で明るくいられる家庭を築く、一番の近道だと思うから。



協力体制バツチリ家族

南中学校 三年

みやけ
三宅 穂

私は、家族は協力し合うことで上手く成り立っていると思います。一人が出来なくなったら他のみんながお互いをカバーするといった協力が大切だと思います。

私が、このように考えるようになったきっかけは、二年前に祖母が帯状疱疹になったことです。その痛みのせいで祖母は、料理や車の運転、日用品の買い出しなど生活に必要なことができなくなっていました。なので私の母が作った物を持っていたりお弁当を買って持っていたりしています。

主に、私の母と私の母の弟が二人で協力して分担して祖父母の食事を用意しています。ですが、私の母も母の弟も仕事をしているのでどうしてもできない日があります。そんな日は、私の兄と私で食事の用意します。このように一人ができないときは、もう一人が、もう一人ができないときは、もう二人がというようにみんなで協力しあっています。

ある日、祖母が私にこのように言ってきました。

「家族のみんなが、こうやって協力しあって私たちのために動いてくれていて感謝してもしきれないくらい感謝してるよ。私は自分がこうやって動けないことが本当に情けなく感じる。」

と言ってきました。

私は、「情けない」という祖母の言葉を聞いて胸が締めつけられるような気分になりました。私の父と母は共働きなので、昔から体調をくずしたりしたときなどによく面倒を祖母に見てもらっていました。なので、祖母には感謝しかありません。だから私は、祖母の「情けない」という言葉を聞いてから、祖母に面倒を見てもらった以上のお返しをしなればいけないと思いました。少しずつだけでも祖母が好きな物を買ってあげたり、祖母が好きなご飯を作ってあげたりしています。これからも続けていきたいです。

そして協力は大切だと身に染みて感じた出来事がありました。それは、祖父母が新型コロナウイルスに感染したことです。祖母は自

宅療養、祖父は血中濃度の値が低く酸素ボンベで酸素吸入していないといけない状態になっていたので隔離部屋で入院となりました。そのため、祖母が家で一人きりになり祖母ができないから祖父がやっていたごみ捨てや仏壇の掃除などができなくなってしまったので夏休み中の私がすることになりました。ごみ捨ては、ごみステーションまで遠くとても大変でした。仏壇掃除は、細かいところまでモップで掃除したりと、どちらにもちがう大変さがあってこれを毎日欠さずにしている祖父は本当にすごいなと思いました。

そして無事に祖母の療養期間も終わり祖父も退院しました。その日の夜に家族みんなで夕ご飯を食べました。みんなで昔話などをして大爆笑してとても盛りあがって楽しかったです。私は、やっぱり家族みんなで団らんしてたくさん話すことが一番楽しくて幸せだと思いました。なので、これからも家族で旅行に行ったり食事を食べたりと一緒に過ごす時間を一つ一つ大切な思い出にしていきたいと思っています。

私は、家族は色々な個性があって自分を出

してくれる特別な存在だと思います。なので
これからも親孝行しながら家族を大切にして
いきたいと思っています。

そして困った時には、家族みんなで協力し
てみんなで助け合ってこれからでてくる色々
な問題を乗り越えていきたいです。



令和6年度「明るい家庭づくり」作文募集要項（倉敷市）

公益社団法人岡山県青少年育成県民会議（以降県民会議と記載）では、標記の作文を募集しています。この募集に際し、倉敷市では次の通り自作の未発表作品を募集します。

記

- 1 主題 「明るい家庭づくり」を主題としたもの。例えば、
 - ・ 小・中学生の場合：「がんばる家族のすがたを見て」「家庭の中での私の仕事」「家庭の中での話し合い」「大人になったらこんな家庭をつくりたい」「家族で〇〇に参加して」（〇〇は地域活動・行事）等
 - ・ 保護者の場合：「親と子のふれ合い・対話」「わが家の子育て方針」「家庭同士のふれ合いや助け合い」「家庭に関する社会問題について考えたこと」等
 - ・ 共通主題：「わが家の家庭の日」「よりよい家庭づくり」「家庭と地域とのかかわり」等

2 対象

- （1）倉敷市内の小・中学校に在籍する児童・生徒。（倉敷支援学校は応募先が県民会議であるため、対象から除く）
- （2）倉敷市内に在籍する園児・児童・生徒の保護者及び勤労青少年。

3 応募方法

（表；制限枚数）

- （1）作文はB4判またはA4判400字詰原稿用紙を使用（小学校低学年はA3判原稿用紙でも可）し、**制限枚数（右表の通り）を厳守する。**

小学生（1～2年）	2枚以内
小学生（3～6年）	3枚以内
中学生・保護者・勤労青少年	5枚以内

（1行目に題名・2行目に学校名・学年・氏名（ふりがな）を記入し、3行目から本文を書く。）

- （2）提出先は、倉敷市教育委員会生涯学習課「明るい家庭づくり」作文係。

- （3）小学生・中学生が応募する場合は、在籍する学校が取りまとめて提出する。

各校で選考した各学年2点までの作品が応募できる。作品には、別紙1（「明るい家庭づくり」作文原稿用紙貼付用紙）を貼付する。また、別紙2（「明るい家庭づくり」作文 教育委員会送付作品一覧表）を添付して提出する。

- （4）応募締め切りは、**令和6年9月11日（水）（必着）。**

※ 保護者及び勤労青少年からの応募作品には、住所・電話番号・児童生徒が所属する学校園名・勤務先名等を記載した書類を添付して直接提出する。

4 倉敷市長表彰（小学生・中学生に限る）

応募作品について、各学年10点の一次審査通過作品を選考し、その中から各学年2点の優良賞作品と各学年1点の優秀賞作品を市長表彰する。（10月上旬頃に受賞決定の通知をする。）

優秀賞受賞者は、翌年2月頃に開催する表彰式に参加し、作文を発表する。受賞者には賞状及び記念品を贈り、作品は県民会議へ推薦する。

優良賞受賞者には賞状を、一次審査通過作品には学校を通じて記念品を贈る。

5 その他

- （1）優秀賞作品以外の作品は、返却する。

- （2）市長表彰作品の出版権は生涯学習課に属することとする。

- （3）倉敷市長表彰作品（優秀賞・優良賞）と一次審査通過作品の出版権は倉敷市や県民会議に属することとし、作文・学校名・学年・氏名等を掲載して作文集として発刊したり倉敷市教育委員会生涯学習課のホームページに掲載したり、県民会議や市での青少年健全育成運動資料等として活用されたりすることがある。

- （4）この要項は、この募集に関し県民会議が定める要領のほか、倉敷市教育委員会生涯学習課が必要な事項を定める。

一次審査通過者一覧

◆小学生の部◆

【一年】

老松小学校	安江 鈴華
葦高小学校	須藤 悠希
菅生小学校	藤永 莉愛
第二福田小学校	江本 莉子
上成小学校	谷本 玲奈
長尾小学校	大賀 結生
福田小学校	竹正 碧羽
船穂小学校	金高 伊折
柳井原小学校	井田 乃々椋
二万小学校	長尾 咲南

【二年】

倉敷南小学校	佐野 心春
菅生小学校	原 心晴
菅生小学校	梅崎 莉乃
茶屋町小学校	國近 良星
茶屋町小学校	安藤 綾伽
西阿知小学校	永原 鈴夏
第四福田小学校	小橋 彩人
緑丘小学校	月川 こころ
船穂小学校	小野 夏妃
箭田小学校	田邊 絢香

【三年】

老松小学校	栗村 暖乃
老松小学校	井田 有咲
葦高小学校	杉原 采那
倉敷南小学校	奥田 涼介
西阿知小学校	安田 羽奏
西阿知小学校	古角 來輝
第一福田小学校	白神 実華
連島南小学校	和田 さくら
船穂小学校	兼述 千紘
箭田小学校	須増 歆太

【四年】

帯江小学校	森 佑太郎
帯江小学校	中藤 麻結
庄小学校	二川 光太郎
庄小学校	犬飼 航
味野小学校	佐藤 海誠
赤崎小学校	難波 悠汰
本荘小学校	片山 華奈
長尾小学校	三宅 杜和
川辺小学校	井川 詩音
二万小学校	平川 想

【五年】

老松小学校	小野山 ゆり
万寿小学校	藤井 結衣
菅生小学校	今 柚花
茶屋町小学校	丸山 美玲

第一福田小学校

赤崎小学校	山原 凜
玉島小学校	奥野 直華
上成小学校	石井 仁菜
長尾小学校	中浜 琉聖
岡田小学校	大本 葉月
	長谷 咲穂

【六年】

倉敷東小学校	村山 凜珠
豊洲小学校	柴田 萌々
茶屋町小学校	横溝 優芽
茶屋町小学校	緒方 美南
連島西浦小学校	大野 咲彩
緑丘小学校	前田 紗来
玉島小学校	中本 陽莉
長尾小学校	福井 颯太
富田小学校	袖岡 直太朗
岡田小学校	赤畠 梨心

◆中学生の部◆

【一年】

北中学校	浅原 紗和
新田中学校	吾郷 桃子
庄中学校	田谷 陸翔
味野中学校	石村 あさひ
玉島東中学校	中浜 美柚
玉島西中学校	石田 彩葵
玉島西中学校	扇喜 翔惺
玉島北中学校	濱田 珠吏

玉島北中学校
真備東中学校

加集 澤
赤畠 位幸

【二年】

西中学校	小野山 ここ
南中学校	宇野 希緒良
南中学校	奥田 椋乃環
東陽中学校	安原 菜々花
庄中学校	庄司 結芽
福田南中学校	實盛 暖
玉島東中学校	栗田 美賀子
玉島北中学校	三宅 知桜
船穂中学校	井上 結衣
真備東中学校	清水 花菜

【三年】

東中学校	平川 杷奈
南中学校	三宅 穂
新田中学校	松永 怜那
東陽中学校	棟長 謙心
庄中学校	品地 諒
庄中学校	佐藤 碧海
連島南中学校	加藤 優菜
玉島東中学校	河端 凜音
船穂中学校	石井 星
真備東中学校	浅野 莉子



倉敷市青少年を育てる会
令和 6 ～ 7 年度活動スローガン

令和 6 年度

「明るい家庭づくり」作文集

令和 7 年 2 月発行

発行・編集

倉敷市教育委員会生涯学習課

〒710-8565

倉敷市西中新田 640 番地

電話・086-426-3845

倉敷市 「明るい家庭づくり」作文

検索

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。